

○ 別表 (学部の学科、研究科の専攻等)

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
	(a)	(b)	(b)/(a) × 100
	(人)	(人)	(%)
<工芸科学部>			
(昼間コース)			
応用生物学課程	221	234	105.88
生体分子工学課程	185	221	119.46
高分子機能工学課程	185	222	120.00
物質工学課程	314	365	116.24
電子システム工学課程	228	275	120.61
情報工学課程	228	277	121.49
機械システム工学課程	334	393	117.66
デザイン経営工学課程	124	155	125.00
造形工学課程	446	492	110.31
学部共通(3年次編入学)	40	-	-
(夜間主コース)			
先端科学技術課程	500	627	125.40
学士課程 計	2805	3261	116.26

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
<工芸科学研究科>			
応用生物学専攻 [修士課程]	69	82	118.84
生体分子工学専攻 [修士課程]	52	61	117.31
高分子機能工学専攻 [修士課程]	52	69	132.69
物質工学専攻 [修士課程]	87	126	144.83
電子システム工学専攻 [修士課程]	50	86	172.00
情報工学専攻 [修士課程]	50	64	128.00
機械システム工学専攻 [修士課程]	74	124	167.57
デザイン経営工学専攻 [修士課程]	24	38	158.33
造形工学専攻 [修士課程]	46	65	141.30
デザイン科学専攻 [修士課程]	25	36	144.00
建築設計学専攻 [修士課程]	35	56	160.00

先端ファイブ科学専攻 [修士課程]	44	91	206.82
修士課程 計	608	898	147.70
生命物質科学専攻 [博士課程]	54	58	107.41
設計工学専攻 [博士課程]	30	30	100.00
造形科学専攻 [博士課程]	24	32	133.33
先端ファイブ科学専攻 [博士課程]	30	45	150.00
博士課程 計	138	165	119.57

○ 計画の実施状況等

(1) 学士課程

学士課程における定員充足率は116.26%であり、収容定員を充足している。課程毎の定員充足率についても105.88%~125.40%であり、全ての課程で収容定員を充足している。

収容数が収容定員を15%以上超過している主な理由は、入学辞退者が多くなる後期重視型の日程を採用しているため、一般選抜においては募集人員を上回る人数を合格者としているが、特に平成18年度は改組の影響を受け、その入学辞退者が予測数を大幅に下回ったことによるものである。

この合格者数の決定は、①入学試験成績、②入学志願者の併願状況、さらに、③前年度以前の入学辞退状況、④前期日程(当該年度)入試における入学辞退状況などを分析のうえ、本学の教育を受けるにふさわしい能力・適性等を判断して行っているが、平成18年度については、教育組織の大幅な改組・再編により、前年度以前の入学辞退状況とは異なる結果となった。

(2) 修士課程

修士課程における定員充足率は、147.70%であり、収容定員を充足している。専攻毎の定員充足率についても117.31%~206.82%であり、全ての専攻で収容定員を充足している。

収容数が収容定員を15%以上超過している主な理由は、最近の入学志願者の漸増によるもので、学生の進学意欲に応えるために能力・適性を判断のうえ、教育研究に支障を来さない範囲で受け入れていることによる。

なお、平成18年度から実施した教育研究組織の改組・再編において、修士課程の質的、量的充実を図るため、9専攻を12専攻に再編整備し、入学定員を82名増員したが、この結果、修士課程全体における定員充足率は、平成17年度と比して、23.21ポイント減少した。

(3) 博士課程

博士課程における定員充足率は、119.57%であり、収容定員を

充足している。専攻毎の定員充足率についても100%～150%であり、全ての専攻で収容定員を充足している。

収容数が収容定員を15%以上超過している主な理由は、学位論文作成遅延による標準在学年限超過学生が影響しているもので、1年次～3年次生の定員充足率は、94.93%である。